

Ⅰ 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
 - b 脱字。
 - c 文末の句点の脱落。
 - d ※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
 - e その他不適切と判断せざるをえない箇所。
- 理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

一

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 明らかな誤字、語句・接続語・助詞等の誤用はそのつどマイナス1点。
- ③ 正答の要素を含んでいても説明の方向性が全くズれていると判断される答案は0点とする。

※ 問一・問二は解答例のみ正解とする。問一の読みが平仮名になっている場合は0点。

※ 問二の誤字は1点減点。

問一 各2点

a || 五感(五官) b || 統合 c || ニナ d || ホドコ e || フツゴウ
f || サカノボ g || 配偶 h || ト i || 部位 j || 潤沢

問二 4点 誤字は1点減点

他者と良い関係を維持(10字)

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点12点

■模範解答例

A 遺伝子が次世代に伝わる際、他の個体の遺伝子と混ぜ合わされ組合わせが異なったり、
B 個体内の遺伝子をコ
C ピーする際に外部からの刺激で食い違いが起こったりすることによって。
D

■字数…八十字 三十九字以下のものは全体不可(0点)

- 要素A 「遺伝子が次世代に伝わる際」…3点
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素B 「他の個体の遺伝子と混ぜ合わされ組合わせが異なったり」…3点
- ・「組み合わせ」には言及しているが、「異なり」に言及していなければ2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素C 「個体内の遺伝子をコピーする際」…3点
- ・「個体内」に相当する説明を欠く場合は2点
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素D 「外部からの刺激で食い違いが起こったりする」…3点
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

- 要素E 「遺伝子の違い」が生じる原因・理由を説明した答案の文末形式として妥当であると判断できれば許容。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点10点

■模範解答例

A 身体の仕組みに機能上の不都合が生じたときに過去に遡ってより適切な遺伝子の組合わせを選び、進化の

B

C

D

過程をやり直すということ。

■字数…六十字 二十九字以下のものは全体不可(0点)

- 要素A「身体の仕組みに機能上の不都合が生じたとき」…3点
 - ・「機能上の」はなくても可。
 - ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「過去に遡って」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「より適切な遺伝子の組合わせを選び」…3点

- ・「より適切な」に相当する説明を欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「進化の過程をやり直す」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素F参照

基準 配点12点

■模範解答例

A
多種多様な問題に直面して、身体D
の仕組みに不都合が生じた時には、それ以前に持っていた構造を前提とし
て、当面の必要に応じた修正を加え、それが次世代に遺伝するという過程E
C

■字数…八十字 三十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「多種多様な問題に直面して」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「身体の仕組みに不都合が生じた時」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「それ以前に持っていた構造を前提として」…3点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「当面の必要に応じた修正を加え」…3点

- ・「当面の」に相当する説明を欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「それが次世代に遺伝する」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「過程(プロセス)」を説明した答案の文末形式として妥当であると判断されるものは許容
不適切な形であると判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点10点

■模範解答例

A B C

D 生物が生き延びるために、多少不正確でもおおざっぱで非本質的な手がかりに依拠した判断に基づいてすばやく情報を処理すること。

■字数…六十字 二十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「生物が生き延びるために」…3点

- ・「生き延びるために」を「食事や生殖」といった具体的な説明になっている場合は2点。
- ・「生物」とい語があるだけ、または、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「多少不正確でもおおざっぱ」…1点

- ・「不正確」「大ざっぱ」のいずれか一つで可。

■要素C「非本質的な手がかりに依拠した判断に(基づいて)」…3点

- ・「非本質的な手がかり」で「判断する」ということが読み取れれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「すばやく情報を処理する」…3点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点1点

■模範解答例

A 人間が頭で情報を処理するためのエネルギーも時間も有限であり、多少の間違いや偏りがあっても
B
C
D 致命的なものでなければ、すばやく情報を処理する方が得策であるから。
E

■字数…八十字 三十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「人間が頭で情報を処理する(ための)」…2点

- ・「頭で」を欠くなど、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「エネルギーも時間も有限であり」…3点

- ・「エネルギー」は「認知資源」でも可。
- ・「エネルギー(認知資源)」と「時間」のいずれかを欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「多少の間違いや偏りがあっても」…3点

- ・「間違い」と「偏り」のいずれかを欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「致命的なものでなければ」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「すばやく情報を処理する方が得策である」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「…から…ので」が原則的な文末表現の形。但し、理由説明答案として許容できる文末表現にならなければよい。不適切な文末表現であると判断される場合は1点減点。

二(袋草紙)

問一 (A)

配点：8点

■和歌の解釈の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答

a b

c

d

e

春霞が一面に立ちこめて描かれているのに、秋霧を思わせるような桐でできた火桶だよ

■要素 a 春霞が：2点

・春(①点) + 霞(①点) 単独採点

■要素 b 一面に立ちこめて描かれているのに：1点

・(火桶に) 描かれていることがわかれば可

■要素 c 秋霧を思わせるような：2点

・秋(①点) + 霧(①点) 単独採点

■要素 d 桐でできた：1点

・(火桶が) 桐製であることがわかれば可

■要素 e 火桶だよ：2点

・火桶・火鉢(①点) + 詠嘆「だな・だなあ・だよ・よ・ことよ」(①点)

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問一 (B)

配点：8点

■和歌の解釈の問題

■採点方法：各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末表現・句読点は不問

■模範解答

a

b

c

d

「桐」に「霞」が描かれて春とも秋ともわからない火桶なので、春の花が咲いているのか、秋に

e

紅葉しているのか、はっきりしないことだよ。

■要素a 「桐」に「霞」が描かれて：1点

・火桶の描写。桐製であることと、霞が描かれていることの二点が完答であること。

■要素b 春とも秋ともわからない火桶なので：1点

・季節が春と秋のどちらなのかわからないことがわかれば可。

■要素c 春の花が咲いているのか：2点

・「花が咲く」①点+（現在推量）疑問①点 花は桜でも可。

■要素d 秋に紅葉しているのか：2点

・「紅葉している」①点+（現在推量）疑問①点

*c・dは疑問があれば現在推量は明確ではなくても可とする。

■要素e はっきりしないことだよ。：2点

・「はっきりしない・ぼんやりしている・きがかりだ」などで可。

■その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問二 配点：10点

■ 内容説明の問題

■ 採点方法：各要素単独採点

■ 字数制限無し

■ 形式上の不備 ・文末表現「とということ・こと」・句読点は不問

■ 模範解答

a

周防内侍が下の句を詠みかけた時、永実がその意を汲んで当意即妙に上の句を返したおかげで、

b

c

自分が恥をかかないで済んだということ。

■ 要素 a 周防内侍が下の句を詠みかけた時：3点

・「周防内侍が」①点 ・「下の句を・歌を」①点

・「詠んだ・詠みかけた」など永実に与えたことがわかれば①点 ↓ 「周防内侍の歌に」でも可

■ 要素 b 永実がその意を汲んで当意即妙に上の句を返したおかげで：3点

・「永実が」①点 ・ふさわしい内容の歌が詠めたことがわかれば①点

・その場ですぐに早く歌が詠めたことがわかれば①点

■ 要素 c 自分が恥をかかないで済んだということ：4点

・「自分が・堀川院が」①点 ・恥をかいていただろう・かかずにすんだ」②点

・「こと・とということ」①点

* (要素bがなければ) 堀川院が恥をかいていたということ。

* (要素bのおかげで) 堀川院が恥をかかずにすんだということ。

■ その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問三 配点…10点

■ 心情説明の問題

■ 採点方法…各要素単独採点

■ 字数制限無し

■ 形式上の不備 ・ 文末表現「心情・気持ち・考えた・思った」など・句読点は不問

■ 模範解答

a

b

c

女房に歌を詠みかけられて、誰も返歌しないので、当事者ではないとはいえ、歌人である自分が

d

黙っているのは恥であり、返歌しなければならないと考えた。

■ 要素 a 女房に歌を詠みかけられて、誰も返歌しないので…2点

・ 「女房に歌を詠みかけられて」いる状況がわかれば可①点

・ 誰も返歌しない状況がわかれば可①点

■ 要素 b 当事者ではないとはいえ…2点

・ 昨日の薫物の一件に居合わせた人が返歌をするべきだと考えていることがわかれば②点

■ 要素 c 歌人である自分が黙っているのは恥であり…3点

・ 自分が歌人であるという自負がわかれば①点

・ 返歌をしないこと・黙っていること①点

・ 恥である①点

■ 要素 d 返歌しなければならぬと考えた…3点

・ 返歌しようと考えていることがわかれば②点

・ 文末「心情・気持ち」と考えている・思っている」など。①点

■ その他…真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問四 配点：12点

■ 歌の意図を説明する問題

■ 採点方法：各要素単独採点

■ 字数制限無し

■ 形式上の不備 ・ 文末表現「意図」 ・ 句読点は不問

■ 模範解答

a
薫物が偽物であると気づかなかつたことを愚かだと歌で言われたことに対し、「それとなく薫る」
b
c
d
e

薫物」の意の掛詞を用いて、皆偽物だとは気づいていましたよと伝える意図。

■ 要素 a 薫物が偽物であると気づかなかつたことを：3点

・ 女房の歌の意図↓人々が「偽の薫物」①点に「騙された・気づかなかつた」②点と指摘

■ 要素 b 愚かだと歌で言われたことに対し：2点

・ 「からかっている・愚かだ」①点と、「歌で言っている」①点ことがわかれば可。

■ 要素 c 「それとなく薫る薫物」の意の掛詞を用いて：2点

・ (偽の薫物に) それとなく薫る薫物・空薫物」①点の「掛詞を用いている」①点

■ 要素 d 皆偽物だとは気づいていましたよと：4点

・ 「みんな」①点 「偽物だ」と①点 「気づいていた・知っていた」②点

■ 要素 e 伝える意図：1点

・ 文末表現「〜意図」という意図・伝える意図」など。

■ その他：真逆の意味になっていなければ、余計な言葉があっても不問

問五

配点…12点

■内容説明の問題

■採点方法…各要素単独採点

■字数制限無し

■形式上の不備 ・文末「く点」・句読点是不問。

■模範解答

a

b

c

この歌は、歌体は異体ではあるものの、場にふさわしく即座に詠んだことからこそ評価された

d

e

のであるが、今では虚薫物についての歌が多く詠まれているため、それらの歌と比較して自分の

↓

歌は悪い歌になっているだろうという点。

↓

■要素a この歌は、歌体は異体ではあるものの…2点

・自分の歌の短所 異体であること。②点

■要素b 場にふさわしく即座に詠んだことから…2点

・自分の歌の長所 「ふさわしい内容」①点 「速さ」①点

■要素c 評価された…2点

・評価された・賞賛された・褒美をもらった・美談とされた・面目を保った など

■要素d 今では虚薫物についての歌が多く詠まれているため…3点

・「虚薫物の歌」①点 「多く・たくさん」①点 「詠まれている」①点

■要素e それらの歌と比較して自分の歌は悪い歌になっているだろうという点…3点

・「自分（作者）の歌」①点 「悪い歌になる」①点 文末「点」①点

■その他…余計な言葉があっても不問

★2022年度 第2回 名大本番レベル模試

三 採点基準 ※60点満点

問一 各2点

- a いかんせん(いかんせんと)
- b ゆゑん(ゆゑんにして)
- c はたして

※解答通り

※カタカナ書きは不可

※b 「ゆゑん」を「ゆえん」としているものはマイナスイ点

※a 「いかん」「いかんと」でも1点与える

問二 6点

A 4点

王邑をして

B 1点

銭二千万を載せ

C 1点

生鹿を楚に

A

求めしむ。

採点のポイント

※すべてひらがなになっているものは、それがすべて合っていれば2点与える

※A 「王邑をして……求めしむ」の組み合わせで4点。

「王邑をして」の「をして」がないものはA 0点

「求めしむ」の「しむ」がひらがなでないものはA 0点

※B 「銭二千万を載せ」の「を」を間違えたものはB 0点

※C 「生鹿を楚に」の「を」や「に」間違えたものはC 0点

※字を間違えていたり、読み方を間違えていたりした場合はマイナス1点

問三 8点

A 2点

齊が、一頭八万という錢で楚の鹿を買おうとしていることが、

B 3点

貴重な金錢を楚にもたらすばかりか、

C 3点

害獣である鹿を楚の地から取り除いてくれるという点で

D 不問

「福」であるということ。

採点のポイント

A 「何が」に相当する内容……2点

※ 「齊が」が欠けているものはマイナス1点

B 「どのような点で」の一つ目のポイント……3点

※ 「楚にとって」のような表現は必須としない

C 「どのような点で」の二つ目のポイント……3点

※ 「害」となっている点が欠けているものはマイナス2点

「鹿がいなくなる」「鹿を引き取ってくれる」「楚から鹿がいなくなる」などが該当。

D 楚にとって「福である」という表現はなくて可

問四 1 6点

A

天

B 3点

且

C 1点

齊を以て

D 1点

楚に私せ

B

んとする

E 1点

なり

採点のポイント

※すべてひらがなにしてあるものは、それがすべて合っていれば2点与える

A 「天」については配点しないが、欠けている場合はマイナス2点

B 「且に……んとする」と再読文字として読み3点

C 「齊を以て」の読み1点

D 「楚に私せ（未然形）」の読み1点

E 「也」は「なり」のほか「か」でも認める

問四 口 6点

A 1点

天が

B 2点

まさに

C 2点

齊を楚のものにし

B

ようとしている

D 1点

のである

採点のポイント

A 主語「天が」あるいは「天は」で1点

B 再読文字「且」の訳2点

C 「齊を以て楚に私せ」の訳2点

「齊を私のものにし」では1点

「齊を私物化し」は0点

D 断定の意「〜である」「〜だ」で1点

問五 8点

A 3点

楚の民が鹿狩りに走って農耕をやめたため、

B 1点

穀物を収穫できず、

C 2点

齊から穀物を金で買おうとしても

D 2点

国境を閉鎖されて買えなかった

E

から

採点のポイント

A 「楚の民即ち其の耕農を釈て鹿を田す」の要素……3点

※「楚の民が」1点

※「鹿狩りに走って」1点

※「農耕をやめた」1点

B Aによって「穀物が収穫できなくなった」こと……1点

C 「自得して穀を修めんとするも」の要素……2点

D 「関を閉ぢ楚と使を通ぜず」の要素……1点

その結果「(穀物を)買えなかった」要素……1点

E 文末の「くから」「くので」「くため」の有無は不問とする

※「穀物の買い取り価格が40倍になって(金が足りなくなった)」などは不可0点。
これに触れているものはマイナス2点。

問六 20点

A 2点

一頭八万銭の値をつけて、二千万銭を準備して

B 2点

楚で鹿を買わせ、

C 2点

一方で穀物を貯蔵しておく。

D 2点

害獣の鹿が高値で売れることで

E 2点

楚の民が農耕をやめて鹿の捕獲に走り、

F 2点

楚王が五倍になった財力で穀物は調達できると踏んだところで

G 2点

国境を閉鎖して

H 2点

穀物を得られなくし、

I 2点

楚の民を穀物をめあてに斉に流出させ、

J 2点

楚の降服を待つ

K

という策。

採点のポイント

- A 第一段落の「一にして八万に当たる」「錢二千万を載せしむ」の要素……2点
- B 第一段落の「人をして楚に之き生鹿を買はしむ」の要素……2点
- C 第一段落の「穀を蔵せしめ」の要素……2点
※ あとのGからIの布石として大事なポイントである
- D 第二段落の「斉其の重宝を以てし福なり」の要素……2点
※ 「害」の要素や「高値」の要素が欠けている場合はマイナス1点
- E 第二段落の「楚の民し鹿を田す」の要素……2点
- F 第三段落の「楚錢五倍してし修めんとす」の要素……2点
- G 第三段落の「関を閉ぢ楚と使を通ぜざらしむ」の要素……2点
- H 第三段落の「穀を修めんとするも、穀得べからざるなり」の要素……2点
- I 第四段落の「楚人の斉に降る者十分の四なり」の要素……2点
※ 楚の民が斉に流出したことの要素に1点
穀物をめあてに、の要素に1点
- ※ 「十分の四」については不問
- J 第四段落の「三年にして楚服す」の要素……2点
※ 「三年」については不問とする
- K 「し」という策」の有無は不問